

米国のシリア攻撃 トランプ大統領が仕掛けた 米中露のパワー・ゲーム

寄稿

おいかわ
まさや
及川 正也 氏

(毎日新聞論説委員)

トランプ米大統領が電撃的なシリア攻撃に踏み切った。アサド政権が化学兵器を使用したと断定し、化学兵器の保管基地を破壊するとともに、再び使えばより大きな被害を受けるという抑止効果を持たせることを狙ったものだ。「単独での武力行使」を世界に見せつけたトランプ政権の強硬姿勢は同時に北朝鮮への強い警告とも言えるだろう。核や生物・化学兵器という大量破壊兵器には容赦しないという

姿勢をトランプ大統領は明確にしたからだ。ロシアや中国を巻き込みながら突如として世界に目を向けた「トランプ氏のグローバル・パワー・ゲーム」の狙いはどこにあるのか。

「無名作戦」の電撃軍事介入

地中海の米駆逐艦「ポーター」と「ロス」から米東部時



地中海の米海軍ミサイル駆逐艦から打ち上げられる巡航ミサイル「トマホーク」=2017年4月7日、AP

間4月6日夜、巡航ミサイル「トマホーク」がシリアに向け発射された。全世界に放映された映像は米国が新たな戦争に着手した事実を示していた。トマホークが初めて実戦使用されたのは1991年の湾岸戦争だ。東西冷戦に勝利し「唯一の超大国」にのし上がった米国の最先端の軍事力を見せつける光景だった。1000^キ以上先の標的を正確に破壊する巡航ミサイルは「パックス・アメリカーナ」の象徴になった。

その後のイラク戦争(2003年)、リビア攻撃(2011年)の「開戦」もトマホークで始まった。イラク戦争では最初の3日で504発が発射され、リビア攻撃でも114発が撃ち込まれた。今回のシリア攻撃も59発が集中砲撃されたが、攻撃とそれに至る過程はこれまでとは大きく異なっている。

過去の攻撃が大規模な武力行使だったのに対し、今回は極めて限定的な攻撃だったことがわかる。米軍は「化学兵器使用の再発抑止」が目的だったとするが、何を目的とするかに意味を込めた作戦名すら公表されていない。目的を持つ大規模な軍事行動を「キャンペーン」と呼ぶが、今回は「ワン・オフ」(一回限り)だ。

なにより、国連安全保障理事会での武力行使容認決議を得ようとする痕跡がまったくない。国連安保理でのシリア非難決議案がロシアの拒否権行使示唆を受けて採決が見送

られた直後の攻撃だったが、非難決議案には武力行使を求める文言すらない。

そんな電光石火の攻撃はどうかやって決まっていたのか。トランプ政権高官らの説明から振り返り、何がポイントだったのかを検証したい。

「目に余る犯罪だ」。4月6日午後、フロリダ州パームビーチの自身の保養施設マララゴに向かう大統領専用機の機中でトランプ大統領は同行記者団にこう語った。子供や女性化学兵器によって殺害された映像が心中を揺り動かしただという。軍事介入を命令したのは、そのわずか2時間後だ。1月29日のイエメン攻撃以来の大統領として大規模作戦の決定だった。「アサド（大統領）の行動を変えようとする過去の試みはことごとく失敗した」。声明で軍事介入の正当性を強調した。

始まりは2日前の4月4日朝（米東部時間）。のちにサリンだと判明する毒ガス攻撃で苦しむ人々の映像に世界に流れた。5日朝には情報機関がアサド政権による化学兵器使用だとほぼ断定。5日昼過ぎ、ホワイトハウスで記者団に「シリアとアサド大統領に対する私の立場は一気に変わった」と明言した。シリア内戦に関心を示さなかったトランプ大統領が表舞台で介入へとスタンスを変化させた瞬間だった。「多くの越えてはいけない一線を越えた」と軍事行動も辞さない姿勢を示した。

5日午後には「3つのオプション」が提示され、トランプ大統領は、攻撃的だが紛争をエスカレートさせない適度な対策を命じた。オプションは2つに絞られ、化学兵器攻撃の発進基地を攻撃対象とする攻撃作戦が精査された。6日、習近平・中国国家主席を迎えるため向かったフロリダ州への大統領専用機中でも協議を続け、「ゴー」サインを出したのは習主席との夕食会の直前。米軍はロシア軍に警告のため「90分以内」の攻撃予告が通知された。

午後7時40分に攻撃が開始されると、ペンス副大統領、ティラーソン国務長官、マクマスター国家安全保障担当大統領補佐官らが手分けして同盟国や議会幹部に通告を始めた。1時間後の午後8時40分、時速880^{km}で飛んでいたトマホークが次々に標的を撃破。飛散を回避するため化学兵器の保管庫は標的から外されたという。トランプ大統領は習主席と中座し、攻撃の事実を直接通告したという。

オバマ氏の「失敗」

シリア攻撃後、オバマ政権の元高官が日本政府関係者にこんな分析を示した。「米国が軍事介入する場合、軍事作戦の詳細だけでなく、それによる外交的な影響とそれを最小限に抑えるための手立てなどを事務方が積み上げたうえで整合性のあるオプションに仕立てる。しかし、いまのトランプ政権には国防総省も国務省も中樞となる高官がまだ



及川 正也(おいかわ・まさや)毎日新聞論説委員。早稲田大学政治経済学部卒。1988年毎日新聞社入社。水戸支局を経て、92年政治部。首相官邸、自民党、新進党、民主党、防衛庁(現防衛省)、外務省などを担当。自民党下野から自社さ政権、野党再編などを経て民主党政権に至る日本政界の激動を20年余取材。2005年からワシントン特派員としてホワイトハウスや国防総省を担当。オバマ氏が勝利した08年大統領選では全米を取材で回った。政治部、経済部、外信部各副部長(デスク)を経て13年4月、北米総局長(ワシントン支局長)。16年4月から現職。米国政治や社会問題から国際政治、日米関係など幅広く取材している。「琉球の星条旗」(毎日新聞政治部、講談社)、「検証『大震災』」(毎日新聞『震災検証』取材班、毎日新聞社)などの執筆、編集に参加した。

そろっていない。トランプ大統領の意向が先行した決定で、事後のことがどこまで考えられているの判断だったのか。

トランプ大統領がショックな映像を見たことで急きよ、軍事介入へと舵と切ったとすれば、「やはり何をするかまだ分からない政権という不安の方が大きい」(日本政府関係者)というのが本音だろう。外交プロセスを捨象したことによる問題にも指摘される。次にその点をみてみ

よう。

シリア情勢を巡っては、4年前にも同じような状況があった。2013年夏、アサド政権が自国民に化学兵器サリンを使用し、これを「レッドライン」と警告していたオバマ大統領が軍事介入に踏み切る方針を表明した。後に軍事作戦から外交決着へと大きく舵を切り、「世界の警察官」の座を辞した米国の衰退を示す一方、経済的・軍事的拡大を続ける中国のめざましい台頭、冷戦の敗者だったはずのロシアの急激な復活を世界は目の当たりにした。国際的なパワーバランスの変化を感じ取ったわけだ。

当時、私はワシントン支局で取材したが、オバマ大統領の武力行使の決断には明らかに迷いがあった。最強の同盟国であるはずの英国は議会が反対して共同作戦を見送り、日本ですら「証拠」を示すよう求めた。日英が支持したイラク戦争で開戦理由の一つだった大量破壊兵器が結局発見されなかったからだけではない。国際法に照らして法的正当性が担保されるのか、という疑念もあった。

国際法上、軍事介入の根拠となるのは国連安全保障理事会の武力容認決議か、自国への脅威が切迫した場合の自衛権の行使の二つだ。シリア攻撃では安保理決議はまともらず、オバマ大統領は「米国の安全保障への深刻な危険」を指摘したが、直接の脅威はなかった。「化学兵器の使用拡大やテロ組織への拡散」も挙げたが、化学兵器禁止条約な

ど国際規約が武力行使を認められているわけではなかった。

脆弱な法的根拠を補うため、オバマ大統領は議会に武力行使を認める決議採択を求めた。イラク戦争のような大規模戦闘と違って限定爆撃で議会承認を求めるのは異例だ。短期間の武力行使であれば戦争権限法の範囲内で議会承認なしに実行できるからだ。オバマ大統領は「議会承認なしでも軍事行動を遂行する権限は大統領にある」としつつ、議会承認を求めたことは、大統領権限だけで武力行使するには無理があることをむしろ告白したことになる。責任の所在を議会にも共有させる考えだったとみられるが、議会はこれに応じなかったのである。

語られない法的根拠

わずか2日半で武力行使を決断した今回の攻撃の法的根拠は遙かに脆弱だ。事前の外交活動の時間的余裕はなく、武力行使容認の国連安保理決議を取り付けようとする動きすらなかった。攻撃に際する声明は「化学兵器の拡散と使用を阻止し抑止することは米国の重要な国家安全保障上の利益」など、オバマ大統領の4年前の声明をほぼなぞっただけで、新たな肉付けはまったくなかったのだ。

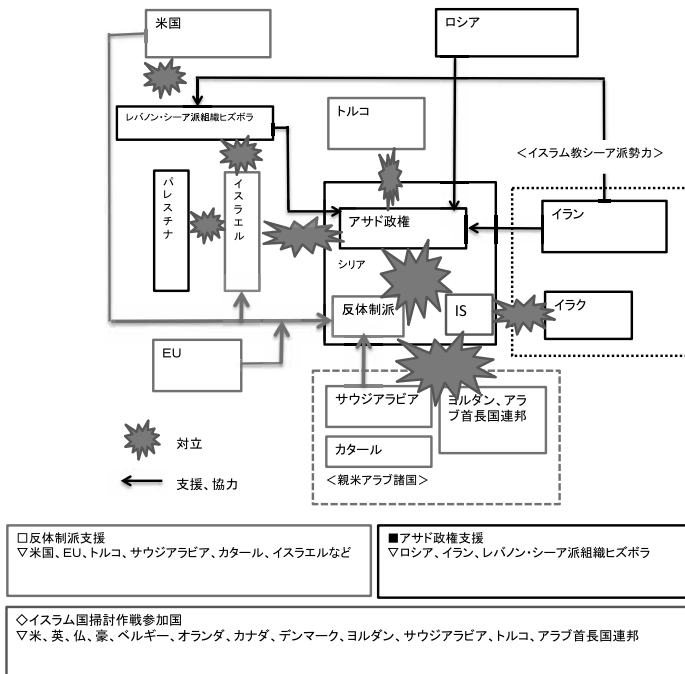
米国の軍事介入や侵攻の多くは自衛権の行使である。レーガン政権は1986年、西ドイツのディスコ爆弾テロ

事件で米兵2人が死亡したことへの報復措置としてリビアを爆撃。2001年の米同時多発テロに対するアフガニスタン攻撃は米本土攻撃への反撃だった。こうした個別的自衛権だけでなく、西側の代表国として集団的自衛権も行使した。1965年のベトナム戦争本格化、1983年の中米グレナダ侵攻はその例だ。

ゴムのように弾力があり、鋼のように固い——。米国の自衛権の解釈は融通無碍で、いったん行使すれば強力な軍事力を動員する。ただ、米国が武力行使の発動根拠をあまり気にしないのかといえば、必ずしもそうではない。1999年にセルビアによる Kosovo の民族浄化に対抗するため北大西洋条約機構（NATO）主導の空爆に米国が参加した。このときは国連安保理決議でも自衛権行使でもない「人道介入」という概念で説明されたが、それが法的根拠となるかどうかの説明はなかった。オバマ政権は4年前の攻撃決断の際、最終的にはこれを援用することは困難と判断したという。

シリアが再度サリンを自国民に使ったとすれば、爆撃を回避したオバマ政権には衝撃だったに違いない。アサド政権の後ろ盾となったロシアとの外交交渉を主導したケリー米國務長官は2014年に「100%化学兵器を排除した」と明言していた。オバマ政権がシリアとロシアにだまされたと後悔し、トランプ政権はオバマ政権がヘマをし

◆ シリアを巡る米口と中東情勢 ◆



たからだと憤っても不思議ではない。トランプ大統領はためらうことなく引き金を引いたというところろ。

対ロシア「衝撃と畏怖」戦略

しかし、今回のシリア攻撃がトランプ大統領の衝動の帰結だったかどうかはまだ様子を見る必要がある。確かに、関係改善を探っていたロシアとの関係は瞬時に冷え込んだが、その先にどのような戦略があるか、見えないからだ。

米軍が今回攻撃した空軍基地はロシアも共同利用していた。トランプ政権はロシアが化学兵器保有を黙認し、サリン攻撃も事前に知っていたと疑っている。ロシアはシリア機が空爆した反体制派の施設に化学兵器が偶然あったと説明するが、米ホワイトハウスはサリンを搭載した爆弾が着弾したのは建物ではなく痕跡などの照合から路上だったと確認しており、ロシアの説明を「作り話」と断定している。国際社会は今回のシリア攻撃を支持する意見が大勢だ。

トランプ氏が大統領就任直前の1月、次期国防長官に指名したのは米石油大手エクソンモービルの前最高経営責任者（CEO）、レックス・テイラーソン

◆ 米国の主な軍事介入と日本の対応 ◆

自衛権		国連安保理決議	
米国	日本	米国	日本
ベトナム戦争 (1965年・北爆以降) ・北ベトナム沖トンキン湾で米駆逐艦が攻撃された事件などへの報復 ・戦況は泥沼化し75年の終結まで米兵58000人が死亡	「不介入」ながら支持 安保条約に基づく基地使用など軍事的・経済的支援	湾岸戦争 (1991年) ・イラクのクウェート侵攻に対する対抗措置 ・米国主導で編成された多国籍軍による大規模戦闘	「確固たる支持」 多国籍軍などに計130億ドル支援。戦後自衛隊法に基づき海上自衛隊をペルシャ湾に派遣
グレナダ侵攻 (1983年) ・クーデターに伴う新政府の反米・共産化のための軍事介入 ・ベトナム戦争以来初の大規模軍事作戦	「理解」 在留米国民保護や関係各国からの要請を受けたやむを得ぬ行動として	イラク戦争 (2003年) ・イラクの大量破壊兵器保有疑惑と武装解除違反など ・大規模戦闘は1カ月余で終了したが、内戦化し戦争は長期化	「支持」 イラク復興支援法を策定しイラクに陸上自衛隊部隊を派遣。戦後初の「戦地」派遣
アフガニスタン攻撃 (2001年・対テロ戦争) ・国際テロ組織アルカイダによる米本土同時多発テロ攻撃への報復 ・英国や豪州などが集団的自衛権発動	「支持」 洋上給油支援のためインド洋に海上自衛隊派遣。「戦時」での初の海外での活動	リビア空爆 (2011年) ・カダフィ政権による大規模な反体制派弾圧 ・オバマ政権による初の大規模軍事攻撃。米露対立先鋭化の引き金	「支持」 戦闘負傷者支援などに820万ドル

※武力行使の法的根拠は米国政府の主張に基づく

ン氏だった。エネルギーを通じて世界を知る人物だった。ロシア通として知られるテイラーソン氏を推薦したのは、大統領補佐官や国務長官を務めたキッシンジャー氏とされる。対ソ連抑止としてニクソン大統領の電撃的な中国訪問を実現させたパワーポリティクス of 戦略家。46年前の脅威はソ連だったが、現在は中国だ。対中抑止のために今度はロシアと連携するメッセンジャー役がテイラーソン氏だったというわけだ。

シリア攻撃は、その構図を大きくとも簡単に崩したようにみえる。「限定攻撃」とはいえ軍事介入すれば中東と世界は大きな混乱の渦に巻き込まれる。オバマ大統領のシリア攻撃決断時にはツイッターで「借金が増え、長い紛争に巻き込まれる恐れがあるという以外、シリアを爆撃していったい何を得られるというのだ？ オバマは議会の承認を得るべきだ」と注文を付けていたトランプ氏である。今回、議会承認の打診はおろか、事前の根回しすらやった節はない。ただ、大統領選出馬前とはいえ、なぜ持論を封じ、態度を急旋回させたのか。

俯瞰して見えてくるのは、シリア問題を解決するのはロシアだという大国外交の強いメッセージだ。トランプ大統領はシリア攻撃に踏み切ったとはいえ、総攻撃による政権転覆や国連を動かしての和平交渉後押しへの関心は引き続き示していない。シリア攻撃後の米紙ウォールストリート・

◆ 主な米国主導の限定攻撃 ◆

発生	攻撃	参加国	政権	内容	理由	根拠
1986年4月	リビア爆撃	米国	レーガン政権	「エルドウト・キャニオン」作戦(4月15日)。最高指揮官カダフィ大佐を殺害を目的に爆弾300発、ミサイル48発で攻撃	米兵2人が死亡したベルリン・ディスコ爆撃(85年)などへの報復措置	自衛権行使
1998年8月	アフガニスタン、スーダン空爆	米国	クリントン政権	国際テロ組織アルカイダの拠点とされたアフガンの予ロリスト訓練キャンプとスーダンの化学工場をトマホーク数発で攻撃。化学工場は薬品・ミルク工場と判明	多数の死者が出たアルカイダによるケニア、タンザニアの米国大使館爆破への報復措置	自衛権行使
1998年12月	イラク空爆	米英	クリントン政権	「砂漠の狐」作戦(12月16～19日)。米英軍がトマホーク320発以上、爆撃機B52から巡航ミサイル80発以上を軍事施設や大統領官邸などを標的に発射	国連機関による大量破壊兵器査察妨害への対抗措置	査察義務の履行を求め、妨害した場合は「最も重大な結果を招く」とした国連安保理決議への違反
2011年3月	リビア空爆	米英仏伊など	オバマ政権	「オデッセイの夜明け」作戦(米軍名、3月19～31日)。米軍は当初リビア軍防空施設など20カ所を114発のトマホークで攻撃	リビア上空の飛行禁止区域設定	武力行使容認の国連安保理決議

ジャーナルとの単独インタビューでトランプ大統領は「シリアには深入りしない」と明言している。ロシアがアサド政権を支持する一方、米国や親米アラブ諸国は後継政権をどうするかのが図柄が描けていない。反政府勢力にはイスラム国(IS)と戦う過激派集団も含まれ、一筋縄ではいかなからだ。

一方、ロシアのプーチン大統領はシリア攻撃

を「主権国家に対する侵略行為であり、国際法に違反している」と反発したが、テイラーソン國務長官とラブロフ露外相との会談では、険悪だった米露関係をこれ以上こじらせないよう対話を継続することで一致。国連安保理では反対した化学兵器禁止機関(OPCW)による調査団派遣も受け入れた。国際世論はアサド政権の化学兵器を野放しにしたロシアという目で見えており、厳しい立場だ。むしろ弱い立場を作り出し、解決に動かせるというのがトランプ政権の戦略であれば、奏功していることになる。

北朝鮮への「警告」

シリア攻撃に続き、4月13日に米軍が非核の通常兵器としては史上最強の大規模爆風爆弾「GBU43B」(MOAB)をアフガニスタンにあるISの拠点に投下した。実戦での使用は初めてだ。ISが利用するトンネル施設を標的としたという。だが、ISにこれほど強力な爆弾の投下が必要かという疑問が出ている。シリア攻撃はまさに習近平・中国国家主席をトランプ大統領が自身の保養地に招いたタイミングで行われた。その直後に原子力空母「カール・ビンソン」を朝鮮半島近海に派遣した。習主席はすぐに動き、トランプ大統領との電話協議で平和的解決を促しつつ、北朝鮮への独自制裁も示唆したという。MOABはイランや北朝鮮の地下核施設への攻撃にも使えたとされる。一連

の軍事行動は北朝鮮をにらんだ意図的なものとの見方もできるが、何より北朝鮮に軍事的圧力を強めることが中国を突き動かすにつながるといふ外交戦術の側面が強い。

トランプ政権が抱える最大の外交問題は、シリア・ISと北朝鮮だ。だが、「米国第一」を掲げるトランプ大統領はこれに対峙する余裕はないと判断している。脅威を放置せず、脅威を拡大させないために、シリアではロシア、北朝鮮では中国を動かすダイナミックな外交戦略を描いたといえば、言い過ぎだろうか。米国がその先の中東安定化や朝鮮半島非核化への戦略を立てているかは不明で、むしろ緊張感だけ高めて「丸投げ」するという危うさを抱えるが、ロシアや中国への「リトマス試験紙」となる可能性もある。荒い手法だが、「米中露」の新型外交ともいえるだろう。

「マッドマン・セオリー」の再現か

「狂人の振りをするのはときにとても賢明なことだ」。イタリアの外交官だったマキャベリがこう記したのは今から500年前の1517年だ。どんな手段を使おうとも国家の利益のためには正当化されるといふ権謀術数主義を唱え、著書「君主論」で知られるが、「狂人の振り」はその著作後にまとめられた「政略論」に出てくる。

ときに狂気を演出し、外交を後押ししようとする手法は「マッドマン・セオリー」と呼ばれる。冷戦期の1969

年にキッシンジャー氏の発案に基づく「ジャイアント・ランス作戦」が有名だ。戦略爆撃機によるソ連への核攻撃作戦を実施し、途中で感づかれるよう仕組んだ作戦。狙いはベトナム戦争を終結させるには核戦争も辞さないという「脅し」をかけ、北ベトナムを交渉に引き入れるよう圧力をかける戦略だった。「ニクソンは何をしでかすかわからない」と思わせることがそのポイントだったという。トランプ大統領は「マキャベリアン」なのか。戦略があるかどうかを読み取るには、もう少し時間が必要だ。